

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

令和8年武道振興大会



挨拶を述べる江波聡徳武道議員連盟会長

注目ニュース

令和8年武道振興大会

武道のより一層の振興を図る

令和8年 武道振興大会

武道議員連盟 日本武道協議会 (公財)日本武道館



令和8年武道振興大会が3月4日、東京都千代田区永田町の衆議院第一議員会館で行われ、国会議員や武道関係者231名が出席した。

大会では、武道の無形文化遺産登録に向けた支援を行うことなどを求めた決議文が採択された。また、松本洋平文部科学大臣、森英介衆議院議長が来場し、武道関係者に対し祝辞を述べた。

※詳細は、今月のニュース（95ページ）をご覧ください。

令和8年武道振興大会

武道の無形文化遺産登録を目指して



田名部副会長・理事長（左）が浅野スポーツ庁次長に決議文を手渡した

令和8年武道振興大会が武道議員連盟、日本武道協議会、日本武道館の共催で3月4日、永田町の衆議院第一議員会館多目的ホールで国会議員・武道関係者231名が出席して開催された。大会では、武道の無形文化遺産登録に向けた国内外の理解促進のための武道の裾野の拡大とさらなる周知への支援など、武道振興発展のための9項目を要望する大会決議が採択され、田名部匡代武道議員連盟副会長・理事長から浅野敦行スポーツ庁次長に決議文が手渡された。

片岡正徳日本武道館常任理事・事務局長が司会を務め、丹羽秀樹武道議員連盟理事・事務局長の開会宣言で大会が始まった。

主催3団体を代表して江渡聡徳武道議員連盟会長が「昨年の武道振興大会の中で高村正彦会長の発言を受け、本年の決議文では武道の無形文化遺産登録に向けた支援についての要望を盛り込みました。今後は、武道の素晴らしさを、国内とともに国外にも広く伝えてまいります。私たちの目的は、『国家百年の計』です。武道を通じて少年少女が心身と



川端達夫

日本武道協議会・日本武道館理事長



高村正彦

日本武道協議会・日本武道館会長



江渡聡徳

武道議員連盟会長



森英介

衆議院議長

もに強く、たくましく成長し、社会貢献のできる立派な人材を育て、社会全体をよくすること、立派な国をつくることにあります。現在、世界情勢は混沌とし、恒久平和は遠のくばかりです。だからこそ、武道の基本精神である『礼に始まり、礼に終わる』。この精神をもっと広めなくてはならないと思います」と挨拶を行った。続いて高村正彦日本武道協議会・日本武道館会長が「昨年の武道振興大会で、日本の誇るべき伝統文化である武道の無形文化遺産登録を目指すと言言いたしましたら、多くの方に賛同いただきました。日本武道館・武道議員連盟・日本武道協議会・その他関係各所が無形文化遺産登録を目指すように動いてくださり、決議までいただき大変ありがたく思っております。無形文化遺産登録を実現するには時間がかかりますが、この時間は、すべての日本国民が祝杯をあげられるような環境を整えるためのものであると思っております。皆様と一致団結して無形文化遺産登録の達成を目指してまいりますので、よろしく願いいたします」と挨拶を述べた。

次に松本洋平文部科学大臣が「武道は我が国の長い歴史と伝統に培われた世界に誇る日本文化であり、心・技・体を一体として鍛え、人格を磨き、礼節を尊重する態度を養うなど、豊かな人間形成に資するものであります。今日、武道が幅広い年齢層の人々から親しまれ、国内はもとより海外においても広く普及・発展していることは、皆様の長年にわたるご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第です。また、今年は昭和元年から起算して満100年を迎える記念すべき年でもあります。武道の素晴らしさを多くの人が味わい、次の100年にも確かに受け継がれるように文部科学省としては、引き続き武道のより一層の振興を図ってまいります。皆様におかれましてもご支援・ご協力のほどお願いいたします」と祝辞を述べた。続いて、田名部武道議員連盟副会長・理事長が大い会決議を読み上げると満場の拍手をもって採択され、浅野スポーツ庁次長に決議文が手渡された。

次に、森英介衆議院議長が「我が国の武道が国内外において、広く親しまれ、その価値が高く評価されていることは大変喜ばしいことです。一方で、国内では少子化の進行に伴い、武道を学ぶ子どもたちが減少していると同っております。複雑化し変化の激しい現代こそ、より多くの子どもたちが武道を通じて心身を鍛え、健全な成長を遂げられることが大切であると考えます。そのために、ここにお集まりの武道関係者の皆様が、一致団結して青少年の武道の普及・振興に一層のお力添えを賜りますよう、切にお願い申し上げます」と祝辞を述べた。続いて、高市早苗内閣総理大臣の祝辞文を司会の片岡日本武道館常任理事・事務局長が代読した。

次に9道武道団体の代表者が挨拶に立ち、現在の活動状況と今後の抱負を述べた。

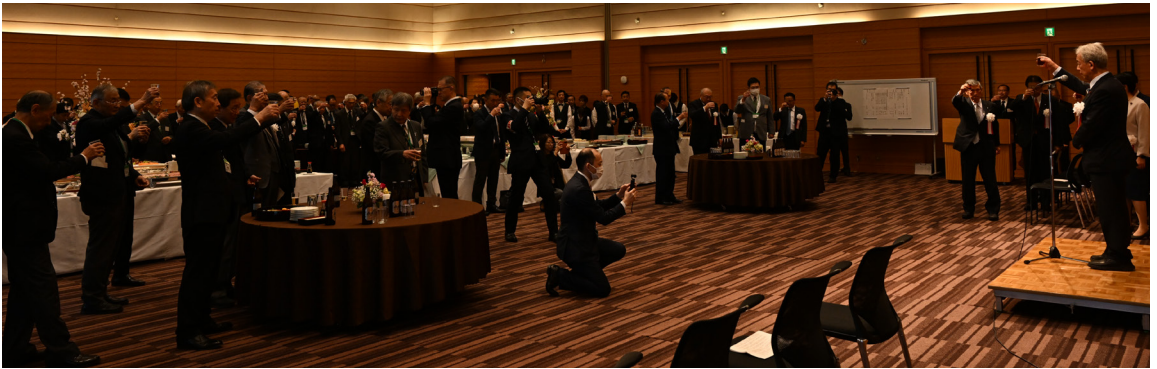
挨拶後は川端達夫日本武道協議会・日本武道館理事長が乾杯の発声を行い懇親会に移った。各道関係者は武道の垣根を越え、新たな目標に向かって親交を深めた。最後は片岡日本武道館常任理事・事務局長が閉会宣言を行い、大会は盛会のうちに終了した。



握手を交わす高村会長（左）と森衆議院議長



決議文を読み上げる田名部副会長・理事長



川端理事長が乾杯の挨拶を行った

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、昨今は国際情勢が厳しさを増し、価値観の多様化も相俟って、行動規範や善悪の基準が揺らぎ、明るい国家、社会の将来を見通すことは難しくなっている。

このような中において、武技による心身の鍛錬を通じて人格を磨き、識見を高め、有為の人物を育成することを目的とする武道は、旺盛な活力と清新な気風の源泉として日本人の人格形成に少なからざる役割を果たしてきた。

我が国伝統の武道の普及奨励は、精神を高揚し、質実剛健の気風を育成するばかりでなく、国家・社会の発展に寄与し、広く世界の平和と福祉に貢献する人物を生み出すために必要不可欠である。これは、教育基本法に示される「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」という目的とも合致する。

よって、我々は武道のさらなる振興発展が図られるよう、ここに左記事項の早期実現を強く要望する。

記

- 一 日本の伝統文化である武道の無形文化遺産登録に向け、国内外の理解促進を図るため、武道の裾野の拡大とさらなる周知ができるよう支援を行うこと。
- 二 必修化された中学校武道授業に関し、学習指導要領に並列明記された武道全九種目が幅広く実施されるよう、外部指導者を活用した複数種目実施のモデル事業を全国各ブロックで継続して行うこと。そのために必要な措置を講ずること。
- 三 中学校武道授業が充実、成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を

内閣総理大臣祝辞

令和8年武道振興大会のご開催、誠にありがとうございます。本日もご集いの皆様におかれましては、日頃より武道振興にご尽力いただき、感謝を込めて敬意を表します。

武道の進展は、2つの道を体現していると存じております。1つ目は、外面における「身体の道」であり、2つ目は、内面における「精神の道」です。この2つの道が調和し合って、豊かな人間形成、ひいては豊かな人生へと導かれます。

我が国における長い歴史と伝統に培われた武道は、日本のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれております。訪日外国人観光客数が年々増加している今日、連綿と続く、日本の精神を体現する武道は、海外からも益々注目を集めることと存じます。

国においては、全国の中学校で武道を必修とする中、武道の推進校を指定し、学校における武道の教育の充実に取り組んでおります。

私も今まで以上に皆様方と一体となり武道の振興発展に取り組んでまいり所存です。引き続きご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

結びに、皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。

令和8年3月4日

内閣総理大臣 高市 早苗

図って、指導に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、時間を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果が上がる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研究会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

四 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

五 学校の運動部活動の地域展開において武道指導の充実が図られるよう、各地域での武道の指導体制を整備すること。武道指導者について継続的に多くの優れた人材を確保できるよう必要な支援、助成を行うこと。

六 武道の国際的普及振興のため、国内外における武道の国際大会や国際交流事業をより一層推進するとともに、海外日本人学校における武道授業の内容充実に向け、必要な支援、助成を行うこと。

七 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

八 武道の源流である千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、伝統流派の活動の成果を認め、文化財保護法に、我が国が世界に誇る「古武道」の名称を明記し、全国各地の古武道の文化財指定が推進されるよう所要の措置を講ずるとともに、文化庁長官表彰の授与など必要な支援、助成を行うこと。

九 武道場の整備については、武道授業を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。全国の武道館及び町道場については、維持存続のため、修繕・新築に関する助成金の支出、賃料・地代の援助、相続税・固定資産税の減免措置を講ずること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

令和八年三月四日

●各道代表者挨拶

◎全日本柔道連盟・中里社也副会長
兼専務理事

「2023年に作成した長期育成指針をもとに、各年齢層に対応するプロダクトが揃ってまいりました。特に高齢者の転倒事故を防止する『転倒外傷予防講習』や、小学生や未就学児に多い顔の怪我を防止する『転び方講習』などが好評いただいています。柔道の創始者である嘉納治五郎師範は、柔道の目的は勝負、体育、修心の三つであると述べています。これからも勝負だけにとどまらず、体育、修心にも用いてまいりたいと思います」

◎全日本剣道連盟・真砂威会長

「剣道界も少子高齢化の影響に悩まされております。その中で高齢化の方は生涯剣道として、高齢者が活発に活動しております。少子化については、剣道未来プロジェクトを立ち上げましたが、なかなか妙案が浮かばず、形だけとなっています。一方、海外に目を向けるとアジア・オセア

ニア地区の組織化が進められ、昨年の12月にアジア・オセアニア剣道連盟が創設されました。そして今年の5月30・31日に、第1回アジア・オセアニア剣道大会が日本で開催されます。大会の成功に向けて尽力してまいります」

◎全日本弓道連盟・永谷喜一郎会長

「全日本弓道連盟には会員が約14万人います。この約半数が中学生・高校生。部活動で弓道を行っている生徒です。部活動から地域展開することに課題は残っていますが、各校・各地域指導者と連携をとりながら尽力して弓道の精神を次世代に継承してまいります。また、令和10年には世界弓道大会を東京で開催することが決まりました。世界大会において日本武道の神髄を示せるような選手を育成してまいります」

◎日本相撲連盟・南和文名誉会長

「日本相撲連盟は昨年6月、国際相撲連盟は昨年の9月、新会長にトヨ

タ自動車の豊田章男会長が就任しました。グローバル企業経営の経験など、抜群の力をお借りし、新会長の最大の目標である日本武道3種目のオリンピック競技参加を目指してまいります」

◎全日本空手道連盟・笹川堯名誉会長

「毎年、決議文を読んでいただいています。毎年、決議文を読んでいただいています。具体的目標を定める必要があると思います。一つでも二つでも実現に近づけるように、皆様が集まって楽しみができるような会にしていただければと思っております。今年も厳しい一年になるかもしれませんが、お互いに手を取り合って頑張ってください」

◎合気会・植芝守央理事長

「国内におきましては、中学校・高等学校の普及度が低いので、地域連盟と協力し、活性化を目指してまいります。海外におきましては、現在140の国と地域に合気道の輪が広がっております。また今年、国際合気道連盟が創設50周年を迎えます。アフリカ・中東・中南米などの国々にも

しつかりと合気道を普及・振興してまいりたいと思います。その時、必ず合気道の理念と技法を正しく指導することを念頭に置き、指導してまいります」

◎少林寺拳法連盟・井上弘理事

「日本の武道は人づくり・人間教育が目的だと思っています。世界では戦争や争いが起こっているのも現実です。このような状況で一番求められているのは、自分の存在も大切であるが、相手の幸せも考えられる特性であると思います。少林寺拳法創始者である宗道臣の『半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを』という理念を持った豊かな心を培った人を一人でも多くつくっていくことが

少林寺拳法の一歩の目的です。少林寺拳法連盟は2027年に創始80周年を迎えます。少林寺拳法の創始の目的を胸に普及・発展に努めてまいります」

◎全日本なぎなた連盟・福岡知子専務理事

「令和7年度に本連盟は創立70周年を迎えました。70年の長きにわた

り、導いていただいた諸先生方に感謝し、これから創立100年に向けて歩み続けていく所存です。さて、中学校では、本年度も152校・約3万人の生徒がなぎなた授業を体験しまし

た。また、昨年12月に行われた男女の全日本選手権大会では、それぞれの優勝者が8度目の日本一に輝きました。彼らを目標とする次世代の選手育成にも力を入れてまいります。

令和8年度には、埼玉県で4年ぶりにねりんピックなぎなた競技が開催されます。80代の現役選手も多く、幼少期から高年齢まで生涯武道としてなぎなたの楽しみや、喜びを

共有し、本連盟が目標とする『凛としたなぎなた』の心を次世代にも継承してまいりたいと思います」



永谷喜一郎
全日本弓道連盟会長



植芝守央
合気会理事長



番匠幸一郎
全日本銃剣道連盟会長



真砂威
全日本剣道連盟会長



笹川堯
全日本空手道連盟名誉会長



福岡知子
全日本なぎなた連盟専務理事



中里壮也
全日本柔道連盟副会長兼専務理事



南和文
日本相撲連盟名誉会長



井上弘
少林寺拳法連盟理事

「今回は二つほど紹介したいことがございます。一つ目は国際的な活動です。昨年、国際銃剣道連盟を創設いたしました。創設後は続々と世界各地に銃剣道連盟の支部が立ち上がってきております。今年にはカナダで国際大会開催を予定しております。また、国内の大会にも海外チームが参加をしてくれるようになりました。銃剣道の良さ、武道の良さを世界に発信できるようにこれからも頑張ってください。二つ目は女性剣士の活躍です。昨年8月に初開催となる全日本女子選手権大会を創設いたしました。女性剣士の活躍・選手層の拡大についてこれからもますます力を入れてまいります。全日本銃剣道連盟は、令和8年度に創設から70年を迎えます。70年の節目を胸に刻みながら、現代に武士道の伝統を継承する武道の一つとして、武道の発展に寄与してまいります」



司会を務めた丹羽秀樹
武道議員連盟理事・事務局長

令和8年武道議員連盟総会は3月4日、武道振興大会に先立ち、衆議院第一議員会館国際会議室で開かれた。総会には同連盟に所属する国会議員（代理出席を含む）、日本武道館役員、スポーツ庁幹部が出席し、同連盟の事務局報告、スポーツ庁の武道振興施策、日本武道協議会と日本武道館の活動報告が行われた。

丹羽秀樹武道議員連盟理事・事務局長の司会のもと、初めに同連盟の江渡聡徳会長が挨拶を行った。続いて同連盟名誉顧問である高村正彦日本武道協議会・日本武道館会長が挨拶を行い会議に入った。

総会では丹羽理事・事務局長から事務局報告として、令和7年の会計報告と決議案が諮られ、全会一致で承認された。続いて浅野敦行スポーツ庁次長が武道振興施策について説明した。

(1)学校における武道指導の充実について
「体育授業における武道種目については、令和元年度から全国各地の中学校を『武道推進モデル校』に指定して多様な武道種目を実践する取り組みを行っている。各武道団体においては、外部指導者の養成講習会・指導ガイドブック等の作成などが、学校の体育授業の支援体制を整える取り組みにも活用されている。令和7年度から新たに各武道を紹介する動画の作成に取り組んでいる。生徒が学校で使用している一人一台端末を使用し、9武道それぞれの概要や礼法、基本的な技法等の解説動画を閲覧できるようにすることで、授業で取り組んでいる武道への理解をより一層深められるようにするとともに、他の武道についてもその成り立ちや実際に行われている風景に触れることができるようにする。本事業

令和8年武道議員連盟総会

運動部活動の地域クラブ活動への展開に向けた武道指導の充実を図る



武道議員連盟総会の様子

は来年度も引き続き実施する」
(2)運動部活動改革について

「令和7年に策定した『部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン』に基づき、令和8年度から改革実行期間として推進していく。部活動の地域展開が進むことで、学校の中で閉じられていた活動から子どもたちが武道に触れる機会が増えることが期待される。今後子どもたちが武道に親しむことができるよう、地域クラブ

の活動の支援を武道団体や各自治体と協力しながら進めていく」
(3)武道場等の整備について

「令和7年度の補正予算で約22億円を計上し、令和8年度の予算は約28億円を計上した」

(4)武道ツーリズムについて

「武道ツーリズムをスポーツツーリズムとの2大重点テーマとして位置付け、必要な支援を行う。訪日客のさらなる増加や地方への誘客、長期滞在に資するものと考え、武道の振興や裾野の拡大に寄与できるものと考ええる」

(5)このスポについて

「このスポ」は、スポーツイベン

トやスポーツ教室・施設などの情報を一元的に取り扱い、スポーツを楽しむたい方々に情報を提供するためポータルサイトである。同サイトに登録することで、誰でも無料で情報を掲載することができる。より多くの人々が日常生活の中で武道に触れる機会をもてるよう、各種武道イベントや武道教室、施設の情報発信など活用を促していく」



次に日本武道館の篠寄浩之振興部長が、令和7年度の日本武道協議会ならびに加盟各団体の活動状況として①青少年武道指導書の活用促進について②令和6年度同協議会の『年報』について③同協議会加盟団体の令和7年度の主要世界大会・全日本大会等開催状況④令和7年度の主な事業⑤古武道保存事業⑥武道国際交流事業⑦武道の無形文化遺産登録申請について説明。次に、令和8年度の主な武道振興普及事業の説明を行った。その中で、令和7年度に実施した事業のうち海外派遣事業に代わり、外国語武道動画配信事業を年度内に8回行う予定であることが報告された。

武道議員連盟役員名簿 (敬称略)

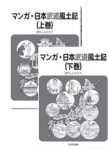
名 誉 顧 問	高村 正彦 (元衆議院議員)	川端 達夫 (元衆議院議員)	
顧 問	麻生 太郎 (自民)	中曽根弘文 (自民)	森 英介 (自民)
会 長	江渡 聡徳 (自民)		
副 会 長	逢沢 一郎 (自民)	有村 治子 (自民)	遠藤 敬 (維新)
	河野 義博 (中道)	下村 博文 (自民)	田名部匡代 (立憲)
	永岡 桂子 (自民)	古川 元久 (国民)	山谷えり子 (自民)
	笠 浩史 (中道)		
理 事 長	田名部匡代 (立憲)		
理 事	笹川 博義 (自民)	柴田 巧 (維新)	丹羽 秀樹 (自民)
	長島 昭久 (自民)	福岡 資麿 (自民)	
事 務 局 長	丹羽 秀樹 (自民)		
事 務 局 次 長	高村 正大 (自民)	熊田 裕通 (自民)	若井 敦子 (自民)

令和8年3月4日現在

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480頁・定価2,640円
本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひご一読を。



マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・並製・248頁・定価1,100円
全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐる。ぜひ読んでみる。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516頁・定価2,640円
本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円
競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自信を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もか陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記した弓道伝記かつエッセイ



柔道 その歴史と技法 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・330頁・定価2,640円
柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354頁・定価2,640円
明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著
四六判・上製・568頁・定価2,640円
空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の高世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

ご注文・お問い合わせ
(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



令和の日本型学校体育構築支援事業 多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化

令和8年度予算額(案) : 195,500千円
(前年度予算額) : 195,500千円

背景

令和3年度から全面実施した学習指導要領において、武道の種目は、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林拳法、銃剣道を示し、我が国固有の伝統文化により一層触れることとしており、保健体育授業における武道等の指導の一層の充実を図るためには、全国的に質の高い授業の実践、教員等の指導力向上が必要である。

事業概要

我が国固有の伝統文化である武道等の指導の充実を図るため、中学校の保健体育における多様な武道種目の実施や外部指導者の活用などの実践研究を行うとともに、武道関係団体による多様な武道指導実践への支援体制の強化を図る取組を行う。

多様な武道等指導の充実

事業委託：51百万円

- (1) 都道府県・指定都市教育委員会等に委託
多様な武道種目に触れる保健体育の授業や外部指導者の活用などを行う中学校を「武道推進モデル校」に指定して実践研究を行うとともに、多様な武道種目の指導法講習会など教員の指導力向上を図る取組等を実施する



指導のための体制強化

事業委託：145百万円

- (2) 法人格を有する団体に委託
・GIGA端末を活用し、児童生徒が技の仕組みや一つ一つの動作がもつ意味などについてより深く理解し実践することができるよう、授業で学ぶ各武道の様々な技や動き、用具等について、それぞれ概要、動作や原理の解説、様々な角度から閲覧できる模範例などをコンパクトにまとめた解説資料を作成する
・武道関係団体による外部指導者の養成講習会や指導ガイドブック資料の作成など、指導力向上を行うことで、中学校における多様な武道種目の実践を支援する体制を強化するための取組等を実施する



(担当：スポーツ庁政策課 企画調整室)

部活動の地域展開等の全国的な実施

令和8年度予算額(案) : 57億円
(前年度予算額) : 37億円
令和7年度補正予算額 : 82億円



理念・方向性

- ✓ 愈々な少子化が進む中でも、将来にわたって子供たちがスポーツ・文化芸術活動に継続して楽しむことができる機会を確保・充実。学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。
- ✓ 学校部活動の意義を継承・発展させつつ、地域クラブ活動としての新たな価値を創出。
- ✓ 地域の実情に応じた持続可能な多様なスポーツ・文化芸術環境を整備。
- ✓ 学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を地域全体で関係者が連携して支え、子供たちの豊かで幅広い活動機会を確保。
- ✓ 「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、地域の実情に応じたスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消。

事業内容

「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」(令和7年12月文科科学省)に基づき、令和8年度からの「改革実行期間」における部活動の地域展開等の全国的な実施を推進 ※印は令和7年度補正予算額に計上

I. 部活動の地域展開等推進事業 54億円 ※令和7年度補正予算額：82億円

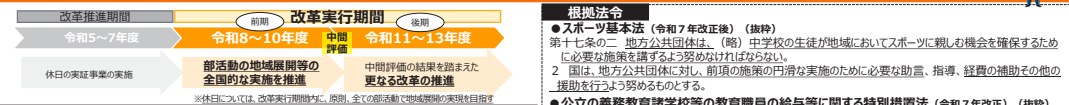
地方公共団体に対して、中学校の部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進や部活動指導員の配置に係る経費を補助するとともに、地域間における体験格差の防止、子供たちの安全・安心な活動や質の高い指導の担保等の観点から、地方公共団体への伴走支援等を実施。

- (1) 部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進 補助金
部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進のために必要な経費を、地方公共団体に対して補助。
① 休日の地域クラブ活動の活用等の支援 ② 経済的困難世帯の生徒への支援 ③ 推進体制の整備等
【指導者謝金、事務局人件費、旅費、消耗品費等】 【参加費・保険料】 【電子データの流通人材の育成・活用、指導者研修、移動手段確保等】
- (2) 平日も含めた地域展開等の加速化のための重点課題への対応 補助金
実現可能な活動の在り方や観客への対応策の検証等を行うため、実証事業を実施。(定期補助：国10/10)
＜主な重点課題＞
・小学校体育専科教師等の指導者としての活用など多様な兼職業業のモデル形成
・地元大学等との連携による指導・運営体制の整備
・学校施設の有効活用(指定管理者制度・民間委託等による管理効率化などを含む)
・平日定数後の地域クラブ活動の移動手段の確保・民間活力の活用等による持続可能な運営モデルの構築
・バススポーツの推進及びインクルーシブな活動環境の確保等

- (3) 中学校における部活動指導員の配置支援 補助金
各学校や拠点校に部活動指導員を配置し、指導や大会引率等を担う。
【17,320人(補助額：13,620人、文化庁費：3,700人)】(補助額：国1/3、都道府県1/3、市区町村1/3(※1))
- (4) 地方公共団体への伴走支援と安全安心・質の高い指導の担保等 委託費等
相談・サポート窓口設置、アドバイザー派遣、取組状況調査、課題への対応策創出、好事例の模写等
・指導・リスクマネジメントの手引きの作成、動画ホームページの運営(JSC運営費交付金)

II. 地域における新たなスポーツ環境の構築等 3億円 ※令和7年度補正予算額：0.4億円

- ・部活動の地域展開に当たりに必要な公立中学校の施設の整備・改修を支援(用具保管の倉庫、スマートロック設置に伴う扉の改修等) ★(一部)
- ・指導者養成のための講習会や暴力等根絶に向けた啓発活動の実施
- ・大学生が卒業後も継続的に地域の中学生の指導に当たる仕組みを構築等



【強い経済】を実現する総合経済対策(令和7年11月21日閣議決定)抜粋
地域クラブ活動の推進・整備各施策を一体的に実行し、部活動の全国的な実施を推進する。

*1 都道府県又は指定都市が実施主体の場合は、国1/3、都道府県・指定都市2/3
*2 本資料におけるスポーツに関する各スポーツは、文化庁所管の、(中学校に特別支援学校や特別支援学級を含む)
(担当：スポーツ庁地域スポーツ課、文化庁参事官(芸術文化担当))

●スポーツ庁 資料

体育・スポーツ施設整備 (学校施設環境改善交付金等)

令和8年度予算額(案)	2,817,891千円
(前年度予算額)	3,208,456千円
令和7年度補正予算額	2,200,565千円
(令和6年度補正予算額)	1,561,459千円



事業開始年度 平成23年度～

- ▶ 自治体が整備する体育・スポーツ施設に対して学校施設環境改善交付金を交付することにより、以下を推進する。
 - 地域のスポーツ環境の充実
 - 災害時には避難所として活用されるための環境整備(耐震化及び空調設備の整備等)
 - 2050年カーボンニュートラル達成に向けて、脱炭素社会の実現に寄与する環境整備

スポーツをする場の確保



- 学校のプール、武道場の新改築等
- 地域の拠点となる運動場、体育館、プール、武道場等の新改築等

※改築：既存の施設を全部取り壊し、更地にしてから同様の施設を造る工事

国土強靱化の推進



避難場所の活用

- 地域のスポーツ施設の耐震化(構造体・非構造体)
- スポーツ施設の空調整備

脱炭素社会の推進



- 地域のスポーツ施設に再生可能エネルギーを整備
- CO₂排出減に寄与する整備を支援

補助対象 地方公共団体

算定割合 1/3 補助 ※空調新設、社会体育施設の複合化・集約化等は1/2

R8制度改正

- 社会体育施設の空調設備(新設)について、補助率引上げ措置の期間延長(令和12年度まで)

事業開始年度 令和5年度～

- ▶ 地域スポーツクラブ活動に必要な用具の保管のための用具庫等、運動部活動の地域スポーツクラブ活動への移行に資する施設について、整備・改修(28.2億円の内0.2億円)を支援する。

補助対象 地方公共団体

補助対象となる学校種

公立中学校

算定割合 1/3 補助

効果

- ✓ 災害に強く、災害時にも快適に過ごせるスポーツ施設を整備することで、災害に強いまちづくりに繋がる。
- ✓ 環境にやさしい地域のスポーツ施設を増やし、脱炭素社会の実現に貢献する。
- ✓ 地域スポーツクラブ活動に必要な整備・改修を支援することで、地域のスポーツ環境整備を促進する。

担当：スポーツ庁参事官(地域振興担当) 付

スポーツによる地域活性化・まちづくり コンテンツ創出等総合推進事業

令和8年度予算額(案)	150,025千円
(前年度予算額)	167,079千円



現状・課題

スポーツツーリズムについて、効果的な取組事例の創出、DXを活用したプロモーション等によるスポーツツーリズム・ムーブメントの創出を進める。これにより、武道を含めたスポーツツーリズムの認知拡大による地方誘客につなげながら、地域スポーツ資源を活用した国内外から選ばれるコンテンツの戦略的な創出を図る。

事業内容

事業実施期間 平成29年度～

① スポーツツーリズム・武道等コンテンツ創出事業 0.6億円【拡充】

○新たなスポーツ文化拠点やスポーツの誕生、海外プロチームの誘致などが生み出す、新しいスポーツのムーブメントを活用した高付加価値コンテンツ、及びスポーツと独自の地域資源をかけた、"ローカルブランド化"を目指すコンテンツの創出をモデル的に支援し、交流人口・消費額拡大への貢献等の効果検証を行う。

1. 一体型スポーツツーリズム

高品質で新たなコンセプトを有するスタジアムやアリーナの誕生、MLBや海外サッカーチームのジャパンツアー、eスポーツの国際大会などの新しいムーブメントを活用し、競技団体・リーグ・民間企業が連携した、観戦単体だけで終わらない高付加価値なスポーツツーリズムコンテンツを創出する。



2. 武道ツーリズム

今後増加が見込まれる訪日外国人観光客をターゲットとし、日本発祥の武道と地域独自の資源(文化・自然・歴史等)が融合した、希少性の高い本物志向のコンテンツを創出する。

3. その他(スノースポーツ・登山・ニュースポーツ等) 日本固有の自然資源などの地の利を活用した、わざわざその地に訪れる価値を有する、新たなコンテンツを創出する。

② スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業 0.9億円

○効果的なムーブメントを創出するため、令和7年度に実施したマーケット調査・分析を基に国ホームページ及びSNSの進化、及びコンテンツ創出の高度化、戦略的プロモーションの実施を実現する。またスポーツツーリズムに関心のある事業者等による交流の場を創出し、その参加者によるネットワークを構築する。

1. オウンドメディアの強化・DX化推進

令和7年度に実施したマーケット調査・分析結果に基づき、国ホームページ等の構成を見直し、現在のコンテンツ紹介サイトからプラットフォームサイトへ進化をさせる。掲載コンテンツの拡充及び、サイト内外の回遊性を高める動線を構築することでUI/UXを向上させ、有用性の高いデータを取得できる環境を整え、戦略的なコンテンツ創出・プロモーション活動に活用していく。

2. 戦略的イベント・プロモーションの実施

武道ツーリズムを中心とした、付加価値の高い体験機会を国内外で創出し、その取組自体を、国ホームページ等でWeb広告も含めたプロモーションを実施。さらに事業等で連携している組織団体等からも同時に発信することで、日本ならではのスポーツツーリズムの認知拡大と、地方誘客促進の最大化を図る。

3. 担い手育成・事業の高度化/ネットワーク構築

マーケット調査及びオウンドメディアの分析結果を、シンポジウムやセミナー、伴走支援等を通じて情報提供することにより、担い手による持続的で高付加価値なスポーツコンテンツ創出の後押しをする。

また、これらの参加者に加えスポーツツーリズムに関心のある一般事業者も参加可能な交流の場を創出し、スポーツツーリズムのムーブメントを底支えするネットワークを作る。

スポーツによる地方創生・まちづくりの実現へ

担当：スポーツ庁参事官(地域振興担当) 付

弓とともに歩んだ町・利府町～「弓道スポーツ文化ツーリズム」プロジェクト！

スポまち！表彰2025
宮城県利府町

<目標> 計画期間：～令和9年3月31日

- ①地域への関心度の向上 ➡体験参加者へのアンケートを実施し「利府町への関心が高まった」と回答した方が80%以上
- ②町SNS（インスタグラム）のPV数増加 ➡体験紹介動画のPV数 1,000PV以上
- ③体験プログラム及び弓道体験会に関わった町民の数の増加 ➡運営ボランティア協力人数 延30名以上

<PRポイント>

- 町にゆかりのある「弓道」を基軸とした新たなスポーツ文化の創造にチャレンジ！
- 「スポーツ×歴史文化×観光」の連携により、町の課題をマルチに解決！
- インナーとアウトースポーツの両輪で「するひと」「みるひと」「ささるひと」の多様な関わりによるまちづくりを実現！

<現状・課題>

利府町は2002年FIFAワールドカップなど多数の大規模スポーツ大会の開催場所となってきたが、「利府町独自のスポーツ文化」と問われると心もとない感があつた。仙天空港や仙台港から30分圏内とアクセス性に優れ、町内には3つのJ駅と4つのインターチェンジがあり、優れた立地性に恵まれているものの、既存資源を生かしたインバウンド観光ルートができていない。

<総合的な取組内容>

【アウトア施策】文化体験型武道ツーリズムコンテンツの造成

- ①お呈茶カフェと「利府を知る入口」体験
利府町に伝わる弓文化の歴史や精神性にふれる“入口体験”
- ②「利府の弓がよみがえる物語」～新たなスポーツ文化の創造に向けて～
利府町の弓文化の再発見から「利府スポーツ流鎧馬大会」創出に至るまでの背景を映像で可視化
- ③利府町の歴史文化×伊達文化×伊達弓道×しきり体験プログラム
伊達家に伝わる弓術を体験用にアレンジした『伊達印西派弓術体験プログラム』の提供
- ④伝統工芸ワークショップ
- ⑤歴史コスプレ×フォトセッション
- ⑥地元弓道強豪校との交流（利府高校等）
競技を媒介とした異文化コミュニケーションの場を創出し、教育に新たな付加価値を生み出す

【インナー施策】ものふ会の設立

- 上記コンテンツの実施に町内住民、弓道経験者等に参加いただき、
- ①弓道場の管理
 - ②ツアーのランドオペレータ ③歴史伝承 ④弓道指導
- などマルチに対応できる「(仮称)ものふ会」の設立に向けた足がかりとする。

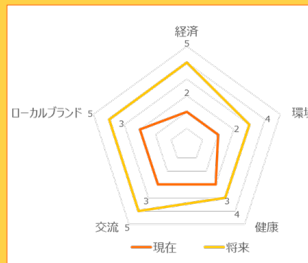


【フォローアップ】令和7年度以降における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<セルフチェックシート>



問合せ先・電話番号



利府町スポーツ振興課
022-767-2190

ココスポのご案内

★ココスポとは

- ・ スポーツを楽しみたい人と楽しくしてほしい人がつながるスポーツ情報ポータルサイト
- ・ スポーツに関するイベント、指導者、施設の情報を掲載
- ・ 2019年よりスポーツ庁が運営

★できること

スポーツに関する

- ・ 大会、イベント、教室、サークル、施設の掲載
- ・ ココスポユーザー向けに募集やお知らせ情報の掲載

全て無料で利用できます！

★特徴

1. 大会、スポーツイベント、施設情報の提供
スポーツに関する情報を写真付きで掲載ができます。投稿したページの閲覧者数も投稿画面から確認できます。
2. サークル情報の提供
一緒にスポーツをする仲間を募集できます。
3. スポーツに役立つ情報の発信
お知らせ情報や、公募情報、補助金情報を発信できます。お知らせ欄で発信したい情報がございましたら遠慮なく情報提供をお願いいたします。



スマートフォン・パソコンから情報の検索や投稿ができます。

QRコードからココスポにアクセスいただき、情報の投稿をお願いします。



ココスポ で検索



(担当：スポーツ庁健康スポーツ課)

第25回全日本短剣道大会

団体戦
成年の部

第39普通科連隊A
(青森)が優勝



団体成年の部・決勝(先鋒戦)＝千葉(39普連A・右)対辻歩翔(50普連A)

第25回全日本短剣道大会(主催Ⅱ全日本銃剣道連盟)が2月15日、日本武道館で開催された。試合は、三人制の団体戦3部門(成年の部、女子の部、高校生の部)と個人戦5部門(成年の部(A・B・C)、女子の部、高校生の部)が行われ、418名の選手・監督が出場した。

100チーム以上が出場した団体戦成年の部では、第39普通科連隊A(青森)と第50普通科連隊A(高知)が決勝を争い、2-1で第39普通科連隊Aが優勝した(以下、普通科連隊チームは「数字」普連」と略す)。

本大会の出場資格は所属都道府県連盟に選抜された高校生以上の有段者とされており、一般から高校生まで老若男女が一堂に会して試合を行う。また、「全日本銃剣道連盟が認める外国人」と記されており、例年海外からの出場者を受け入れている。今大会では団体戦に台湾、カナダから選抜チームが出場、個人戦でも14名の外国人選手が出場し、各試合場で短剣道の試合を通じた国際交流も行われていた。

団体戦成年の部(101チーム出場)

の決勝は、第13回大会(平成26年)以来2度目の優勝を狙う39普連Aと過去11回と最多の優勝を誇る50普連Aが争った。39普連Aの先鋒・千葉幸治と中堅・小倉洋平が勝利し、12年ぶりの優勝を決めた。

団体戦女子の部(15チーム出場)

の決勝は、普通科教導連隊(静岡/以下、普教連)と前回大会優勝の郡山(福島)が対戦。普教連は中堅を除いた2名での出場であったが、昨年8月の杉子女王杯第1回全日本女子銃剣道選手権大会準優勝の森川友紀子、同3位の今澤美紗貴が勝利を重ね、2名で団体優勝を掴んだ。

団体戦高校生の部(13チーム出場)決勝は、前回大会と同じく佐賀農業高校A(佐賀)と宮城県農業高校(宮城)が対戦。佐賀農業高校Aの先鋒・古賀奏丞と中堅・峰下恭芽がそれぞれ胴を2本決め、2年連続の優勝を果たした。

個人戦は、成年Aの部・吉村佳祐(普教連)、成年Cの部・長谷川英昭(東京都選抜)、高校生の部・洲上誠太(佐賀農業高校)の3名が2連覇を達成した(長谷川は成年Bの部の優勝を



団体高校生の部・決勝（先鋒戦）＝
 古賀（佐賀農業高校A・右）対太田良史（宮城県農業高校）



団体女子の部・決勝（大将戦）＝
 森川（普教連・左）対軽部久美子（郡山）



個人成年Cの部・決勝＝
 長谷川（東京都選抜・左）対佐藤武範（九徳塾）



個人成年Aの部・決勝＝
 吉村（普教連・右）対野田峻祐（本間道場）

<p>●大会結果</p> <p>▼団体戦</p> <p>●優 勝 第39普通科連隊A（青森）</p> <p>○準優勝 第50普通科連隊A（高知）</p> <p>○3位 第12偵察戦闘大隊A（群馬）</p> <p>普通科教導連隊A（静岡）</p> <p>（女子の部）</p> <p>●優 勝 普通科教導連隊（静岡）</p> <p>○準優勝 郡山（福島）</p> <p>○3位 第13普通科連隊（長野）</p> <p>山梨博真館（山梨）</p> <p>（高校生の部）</p> <p>●優 勝 佐賀農業高校A（佐賀）</p> <p>○準優勝 宮城県農業高校（宮城）</p> <p>○3位 佐賀農業高校B（佐賀）</p> <p>文星芸術大附属高校（栃木）</p> <p>▼個人戦</p> <p>（成年Aの部）</p> <p>●優 勝 吉村 佳祐（普通科教導連隊）</p> <p>○準優勝 野田 峻祐（本間道場）</p> <p>○3位 鎌倉 卓摩（普通科教導連隊）</p>	<p>（成年Bの部）</p> <p>●優 勝 山口 徹（第18普通科連隊）</p> <p>○準優勝 佐藤 岳（普通科教導連隊）</p> <p>○3位 矢浦 功二（第1ヘリコプター団）</p> <p>飯嶋 一（ALSOK）</p> <p>（成年Cの部）</p> <p>●優 勝 長谷川英昭（東京都選抜）</p> <p>○準優勝 佐藤 武範（九徳塾）</p> <p>○3位 佐野 泰生（東京都選抜）</p> <p>安西 直毅（本間道場）</p> <p>（女子の部）</p> <p>●優 勝 森川友紀子（普通科教導連隊）</p> <p>○準優勝 鈴木 弥生（本間道場）</p> <p>○3位 今澤美紗貴（普通科教導連隊）</p> <p>山口あや子（郡山）</p> <p>（高校生の部）</p> <p>●優 勝 湖上 誠太（佐賀農業高校）</p> <p>○準優勝 峰下 恭芽（佐賀農業高校）</p> <p>○3位 正賀 洋輝（佐賀農業高校）</p> <p>小林 玲央（文星芸術大附属高校）</p>
---	--



海外からの出場者も健闘した

含めると3年連続の優勝。成年Bの部では山口徹（18普連）が7年ぶり2回目の優勝、女子の部では団体戦でも活躍した森川（普教連）が初優勝に輝いた。



「ガーディアン・ガールズ・空手プログラム」記者会見

空手道を応用した女性用護身術

アジアでの普及を目指す



調印した覚書を掲げる笹川全日本空手道連盟会長（左）と奈藏 W K F 事務総長

国連人口基金、国際キフ機構、世界空手連盟（WKF）が推進する空手道を応用した女性のための護身術トレーニングプログラム「ガーディアン・ガールズ・空手（GGK）プログラム」について、アジアでの立ち上げを発表する記者会見が3月9日、駐日スペイン大使館（東京都港区）で開かれた。本記者会見で笹川善弘全日本空手道連盟会長と奈藏稔久WKF事務総長がGGKプログラムに関する覚書に調印し、アジアにおける同プログラムの発展のために協力することを表明した。

GGKプログラムとは、DVやハラスメントを含むジェンダーに起因する暴力（Gender-Based Violence）

の危険性を少しでも減らすため、空手の技術を応用した実践的な護身テクニックを学ぶ、女性限定の国際的プログラムである。

GGKプログラムの目的は、護身術のトレーニングを通じて、ジェンダー平等と女性が輝ける環境づくりを促進することであり、本記者会見に先がけて、同月7・8日に日本空手道会館（東京都江東区）で、アジア初のGGKインストラクターコースが行われた。インストラクターコースを修了した受講生は、自身の国でGGKプログラムの公認インストラクターとして活動することができ

ることにちなみ、駐日スペイン大使館で行うこととなった。

はじめにイニゴ・デ・パラシオ・エスパリーニャ駐日スペイン王国大使が壇上に立ち、「GGKプログラムがアジア地域における立ち上げにあたり、スペイン大使館にお越しいただき大変光栄に存じます」と歓迎の挨拶を述べた。そして「我が国は過去数十年にわたり女性が自らの権利を行使できるよう、平等を促進し、ジェンダーに起因する暴力に抗うための公共政策を展開してきました。我が国は、このGGKプログラムの取り組みを通して全ての女性・少女がより強く、安全に、そして自由に自らの可能性を最大限発揮できるように支援してまいります」と述べた。

今回の記者会見は、WKFがス

続いて、笹川全空連会長が「空手

好評発売中!

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、共同執筆で紐解く。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

空手道 技法とその歴史と

小山正辰 和田光二 嘉手苺徹 著



四六判・上製・568頁・定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp



小山田真
国際キフ機構会長



堀井巖
外務副大臣



イニゴ・デ・バラシオ・
エスパーニャ
駐日スペイン王国大使



GGKインストラクターによる
護身術のデモンストレーション



GGKプログラムについて
動画で説明が行われた

は日本の沖縄で生まれ、現在スポーツの枠を超えて世界に広がっています。空手は哲学であり、敬意、規律、自信、そして忍耐力を学ぶことができる人格形成の道です」と挨拶を述べた上で、「これらの価値観は、特に女の子や女性にとって大きな力となります。空手は女の子や女性が日常生活の中でより自信と力強さを感じられる一助になりうるでしょう」とプログラムの主旨について説明した。

奈藏事務総長と小山田会長から来賓として出席した堀井巖外務副大臣へ記念品が手渡された。堀井副大臣は記念品を受け取った後、壇上で感謝の言葉を述べ、GGKプログラムのさらなる発展を祈念した。

その後、ステージにテーブルが設置され、全空連とWKFのパートナーシップ協定に関する覚書の調印式が行われた。笹川会長と奈藏事務総長がそれぞれ席につき、アジアにおけるGGKプログラムの発展のために協力する旨の覚書に調印した。

最後に、GGKインストラクターによる模範演武と護身術のデモンストレーションが行われ、出席者から演武者に大きな拍手が送られた。